

経歴

- 平成14年 4月 総務省採用
同 自治税務局固定資産税課
- 平成14年10月 福島県総務部市町村課
- 平成16年 8月 総務省自治行政局自治政策課地域情報政策室
- 平成18年 7月 同 自治財政局調整課
- 平成19年 4月 札幌市市民まちづくり局企画部調整課長
- 平成21年 4月 同 市長政策室政策企画部企画課長
- 平成21年 7月 内閣官房地域活性化統合事務局参事官補佐
- 平成23年 4月 広島県総務局広報課長
- 平成24年 4月 現職



自分自身を総動員して

広島県総務局財政課長

村上 仰志

Murakami Takashi

PROFILE
23

「世のため人のために色々な仕事をしたい」という漠然とした思いを胸に総務省の門を叩いてから早10年が経ち、平成25年1月現在、広島県財政課長として来年度当初予算編成の真っ只中にいます。

財政課長の醍醐味

財政課長は、商工業・農林水産業の振興から医療福祉、環境文化、子育て教育、土木建築事業まで県民生活に直結するありとあらゆる政策・事業の取りまとめ役です。庁内調整はもちろんのこと、県議会、関係する市町村や経済界との調整、マスコミ対応など日頃から庁内外を駆け回ります。持ち込まれる案件はタイムリミットが迫っている手ごわい難問ばかりです。時機を失せず適切に対応するためには、机上で理屈を整理するだけでなく、普段から、現地に足を運んだりマスコミと意見交換したりする中で県民目線ではどのように受け止められているのか、また利害関係者からはどのような主張がなされているのかなど様々な角度から情報収集・分析し、自分なりの考えを整理しておかなければなりません。

特に当初予算編成においては、全ての行政分野を相手にする予算査定の実行者として、これまで培ってきた県民や現場の目線を大切にしながら、国の各省庁の政策を縦割りではなく横串で駆使しつつ、政策課題に対応した政策・事業を構築することが求められます。

例えば、広島県では平成25年度の目標の一つとして「女性の働きやすさ日本一への挑戦」を掲げましたが、一言で女性の働きやすさと言っても、結婚・出産、子育て、ポスト子

育てといったライフステージごとに抱える悩みは異なっており、女性個人の問題ではなく受け入れる企業や社会の側の問題がある場合もあります。こうした問題に対応するためには、商工労働局、健康福祉局、環境県民局などと部局横断的に問題意識を共有しながら、国の政策を単に適用するだけでなく県民目線に立って、各ライフステージに応じた就業支援策・就業受け皿の創出や保育所の待機児童解消といった総合的な対策を講じていく必要があります。部局間の調整をする中で優先順位をはっきりさせ、コストが過剰になっていけば削減し、足りていない分野があれば追加することによって、本当に県民の役に立つ効果的な政策・事業を展開することができるとです。

かけがえのない財産

予算案を策定した後は県議会やマスコミなど対外的な説明に自ら先頭立って駆け回ります。県民生活が具体的にどのように変わるのか分かりやすく説明することが求められ、その反応が即座に自分に返ってきます。住民に身近な行政の現場においては生活実感から離れた論理・理屈だけでは通用しないことを痛感させられます。こうした感覚は地方行政の現場においてこそ体得できるものであり、今後の自分の判断の拠り所として大きな財産になるものと確信しています。

総務省では若くして責任ある管理職を任されるため、僅か10年程度で培った自分の知識・経験では乗り越えられない壁に遭遇することもあります。そんな時は周囲の方々の支えが頼りですが、知識や理論を振りかざし

てみても、周囲を動かすことも信頼を得ることもできません。自分の持てる力、全人格、これまで培ってきたものを総動員してぶつかっていくことで初めて道が開けます。そしてお互いに支え助け合うことによって目標を成し遂げられた時の達成感は格別なもの

です。振り返ってみると、総務省入省以来、国と地方自治体を行ったり来たりする中で一番の財産は、様々なフィールドや与えられたポジションで世のため人のために働いている魅力的な方々との出会いです。2~3年ごとに全く違う環境に自分の身を置く中での新たな出会いは、常に刺激的で自分を成長させてくれるエネルギー源となっています。現在、財政課長として緊張した場面が続く中でも臆せず何とか前に進むことができるのは、様々な出会いと経験に裏付けられた自信があっ

てこそだと思います。総務省に興味を持った一人でも多くの皆さんが総務省の門を叩くことを願ってやみません。きっと魅力的なたくさんの出会いが待っていることでしょう。



予算編成方針について議論中(筆者左から2番目)

経歴

- 平成5年 4月 郵政省採用
7月 同 郵務局施設課システム企画室
- 平成6年 7月 同 郵務局機械情報システム課
- 平成7年 3月 同 大臣官房総務課
- 平成8年 7月 米国留学(デューク大学ロースクール)
- 平成9年 7月 郵政省電気通信局電気通信事業部電気通信利用環境整備室企画係長
- 平成11年 7月 同 電気通信局総務課課長補佐
- 平成13年 1月 総務省総合通信基盤局総務課課長補佐
- 平成13年 9月 総務大臣政務官秘書官
- 平成14年10月 総務省総合通信基盤局電気通信事業部電気通信利用環境整備室課長補佐
- 平成15年 6月 同 総合通信基盤局電気通信事業部消費者行政課課長補佐
- 平成16年 6月 OECD日本政府代表部一等書記官
- 平成19年 7月 総務省総合通信基盤局総務課課長補佐(統括補佐)
- 平成20年 7月 同 情報通信国際戦略局情報通信政策課課長補佐(統括補佐)
- 平成21年 7月 同 中国総合通信局放送部長
- 平成23年 9月 総務省情報通信国際戦略局情報通信政策課調査官
- 平成24年 6月 現職



「グローバル」を体感する仕事

在米国日本国大使館参事官

中溝 和孝

Nakamizo Kazutaka

PROFILE
24

皆様、はじめまして。私は今、米国ワシントンにある日本大使館に勤務しています。

大使館での日々

「えっ、大使館でどんな仕事をするの?」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが。大使館での私の主な仕事の一つは、ICT関連の政策に関する日米両政府間の協力関係の強化です。一例を挙げると「日米インターネットエコノミー政策協力対話」というものがあります。これはインターネットの経済的な課題について日米両政府の参加者が定期的に意見交換を行い、両国間の連携を具体的に推進するための枠組みとして設けられているものです。例えば、クラウドコンピューティング、オープンデータ、インターネットガバナンスなど、会合でどのようなテーマを取り上げて連携施策につなげるか、民間部門の声をどう議論に反映させるか、両政府からの共同発表文書をどう取りまとめるか、などについて、米国政府との間で連絡・調整しながらこの枠組みを前進させていくのが私の役割です。

米国におけるICTに関する政策・市場動向を情報収集・分析することも大事な仕事の1つです。インターネットが生まれた国であり、アップル、マイクロソフト、グーグル、アマゾン、フェイスブック、...といった多数のグローバルなビジネスプレーヤーを生み出してきた国でもあるアメリカは、ICT市場や政策面の動きも、やはりグローバルでダイナミックです。ワシントンはまさにアメリカの

政治・行政の中心であり、さらには、国際的な政治・行政の中心でもあるということを実感しながら、日々キャピトルヒル(国会議事堂)やホワイトハウスを始めとする連邦政府機関の動きを追いかけています。

「グローバル」を体感する仕事

ワシントンに赴任して特に強く感じることは、ICT分野は「グローバル」を体感する仕事であるということです。

世界のインターネットユーザ数は、2010年には20億人であったのが、2020年には40億人に達すると言われていています。今後、ネットワークが急速に新興国・途上国に広がり、グローバルな市場競争が見込まれる一方で、サイバーセキュリティやプライバシーの保護といった政策課題もグローバルな形で解決が求められるようになっていきます。こうした中で、ICT分野における日本の国際競争力を向上させ、また、日本の国益を確保するためには、米国をはじめとする海外の動向を見据えて、より戦略的に政策づくりを進めていくことがさらに重要になると感じています。

また、こうしたグローバルな政策・戦略づくりの重要性を肌で感じつつ、日本の国際競争力向上のためには、どのような施策や課題について米国政府と協力していくことが有益か、あるいは、米国における政策・市場動向の中で、どの情報が日本にとって重要かと考えたりしながら、日々の仕事に取り組んでいます。

もう一つ、ワシントンに赴任して感じることは、日本のきめ細かなサービスや高い技術力に対する期待、日本文化に対するポピュリティの高さです。日本人と日本社会は、日本の強みや潜在力を再認識し、また、これを活かせば、今後もグローバル社会の中で勝ち残っていくことができると感じます。

貴重な海外勤務の経験

海外に勤務すると、自ずとグローバルにもものを見る必要性に迫られると同時に、日本のことを第三者的に見ることができるようになります。こうした経験は海外勤務の魅力でもあると感じており、日本へ戻って仕事を

をする際にも活かしていきたいと思っています。グローバルな政策や戦略づくりが求められるICT分野。ここで活躍したい方、総務省と一緒に働けることを楽しみにしています。



休日、子供たちと公園にて